

Minimal ミニマル/コンセプチュアル Conceptual

ドロテ&コンラート・フィッシャーと
1960-70年代美術

Dorothee and Konrad Fischer and
the Art Scenes in the 1960s and 1970s

3月26日(土)～5月29日(日)



ドロテ・フィッシャーとコンラート・フィッシャー 1969年 Photo: Gerhard Richter

開館20周年 関西の80年代 Contemporary Art of the 1980s in Kansai 6月18日(土)～8月21日(日)

※「スーラージュと森田子龍」は開催延期となりました。

観覧料 一般 1,600円、大学生 1,200円、高校生以下無料、70歳以上 800円
障がいのある方(一般 400円 大学生 300円)

ミニマル・アートは、作家の手仕事やその痕跡を廃し、単純で幾何学的な形やその反復から成る作品を制作する美術の潮流です。続いて現れたコンセプチュアル・アートは、物質的な制作物以上に、その元となるコンセプトやアイデアを重視します。

これらの美術が展開した1960-70年代当時、まだ発表機会の少なかったこの2つの動向の実験的な作品を紹介する場としてギャラリーを開いたドロテ&コンラート・フィッシャーの旧蔵作品を中心に、この時代の美術を振り返ります。

関連イベント

■ 講演会「ミニマル/コンセプチュアルって何? 現代美術の楽しみ方」

講師: 林寿美氏 (インディペンデント・キュレーター)
4月9日(土) 14:00～(約90分) ミュージアムホール、
定員110名、当日先着順、要観覧券、芸術の館友の会会員優先座席あり

■ 学芸員による解説会

4月23日(土)、5月7日(土) 各日15:00～(約45分)
レクチャールーム、定員40名、聴講無料、当日先着順

■ こどものイベント

詳細は当館Webサイトにてお知らせします。
こどものイベントについてのお問合せ TEL 078-262-0908

1980年代には、バブル経済とポストモダンの思潮を背景に、以前の禁欲的な現代美術の傾向から一転して、多彩な表現が花開きました。特に関西では、兵庫県立近代美術館のシリーズ展「アート・ナウ」などで若い作家が台頭し「関西ニューウェーブ」として注目を集めました。作り手それぞれのリアリティに根差した、今なお新鮮な作品群を紹介します。

関連イベント

詳細は当館Webサイトにてお知らせします。

世界の美術館の歴史 —開館20周年によせて

兵庫県立美術館 館長
袁 豊

本年、兵庫県立美術館は、原田の森ギャラリーから現在地に移って開館してから20年を迎えます。これを記念して、9月10日から11月20日まで、ボストン美術館所蔵「THE HEROES 刀剣×浮世絵—武者たちの物語」展を開催します。日本の名刀や浮世絵が里帰りする展覧会です。アメリカの三大美術館の一つであるボストン美術館の日本美術コレクションを、今年当館でご紹介するにあたり、世界の美術館の歴史の一端を振り返ってみたいと思います。

世界最初の美術館ともいべき奈良の正倉院は、奈良時代の752年に、聖武天皇(701-756)が東大寺大仏の開眼式に使用した道具一式とその他の多くの調度、工芸、風俗品を、光明皇后(701-760)が奉獻されたことに始まり、今日まで学問的、文化的、民族学的遺産たる美術品の継承を通じて全世界に貢献しています。正倉院宝物の保存状態が保たれた背景には、建築構造上の理由、ならびに人目に晒されなかったことが一番大きいでしょう。校倉(あぜくら)といって三角形に切った木を組んで造られており、それが天然のエアコンになります。そして天皇の許しがいなければ開けられない「勅封」がされているため、人目に触れることがほとんどありませんでした。美術館の展示としての機能は持ち得ていませんでしたが、保存の上では最上だったのです。



アシュモレアン美術・考古学博物館
Ashmolean Museum, Exterior Image © Ashmolean Museum, University of Oxford

世界最古の大学美術館・博物館は、イギリスのオックスフォード大学付属のアシュモレアン美術・考古学博物館で、開設されたのは1683年です。本格的な規模の大きな美術館としては、パリのルーヴル美術館が最初です。現在の建物は、歴代の王が宮殿としていたもので、1793年8月に、正式に美術館として開館しました。230年近く経った現在では、約50万点の美術品を有しています。

博物館としては、ロンドンの大英博物館の設立がルーヴルより古く、1753年です。その始まりは、大変なコレクターであった医師のハンス・スローン卿(1660-1753)です。彼は死後に自らのコレクションが散逸するのを恐れ、2万ポンドでイギリス政府に売却するように遺言を残しました。これが議会で受け入れられ、大英博物館が誕生します。彼のコレクションは生物の資料、書物、美術品などで、なかには珍しい日本の作品も含まれていました。同館はコレクションの収集を続け、開館から269年が経った現在、その数は800万点以上になります。入場者も年間640万人に達しています。スローン卿もさぞびっくりしていると思います。

アメリカに美術館が設立され始めたのは主に1870年代のことです。1870年、ボストン美術館が産声を上げ、ニューヨークのメトロポリタン美術館やシカゴ美術館と、次から次へと美術館が建てられていきました。当時のアメリカの美術館の多くは、英語で「マンション」と呼ばれる邸宅のような建物でした。その後増築を重ねて、現在のような巨大なものとなったのです。コレクションも、最初は美術品と呼べるような作品は多くはありませんでした。それが半世紀の間に、膨大な資金と組織力で、想像を絶するコレクションが築き上げられました。その陰にすぐれた学芸員即ち研究員がいたからです。また、大きなコレクションを維持するためには多くの人材が必要になります。例えば私が9年間勤務したシカゴ美術館は、現在約600人の従業員で維持され、その年間予算は約100億円です。日本の美術館とは比較になりません。



ボストン美術館
Photograph © Museum of Fine Arts, Boston

さてボストン美術館は、多くの日本美術の名品を所蔵していることで世界的に名を博していますが、そのコレクションの成り立ちについてはあまり知られていないと思います。1877(明治10)年、アメリカから若い動物学者エドワード・モース(1838-1925)が来日しました。このモースの来日が、日本国外で世界一の日本美術コレクションをボストンに築く源になることを、誰が予測したのでしょうか。モースは、世界でチャールズ・ダーウィン(1809-1882)の進化論が話題になっている頃、自説を証明するために必要な資料を収集する目的で来日し、東京大学の教授にも就任しました。彼が一躍有名になったのは、大森で大きな貝塚を発見し、日本史上最初の考古学発掘調査を行い、1879(明治12)年に発掘報告書『大森貝塚』を発表したことです。ある日東京大学から哲学者を紹介して欲しいと言われ、まずモースの頭に浮かんだのが、出身地であるアメリカ、ボストン近郊のセイラムという港町の自宅近くに住む親友の息子で、ハーバード大学で哲学を専攻していた彼を推薦しました。彼の名はアーネスト・フェノロサ(1853-1908)。フェノロサが初めて日本に上陸したのは1878(明治11)年です。彼は東京大学で哲学の講義を持つたわら、日本美術の美しさに魅了されて行きます。彼がいち早く購入したのが、現在ボストン美術館の代表的な収蔵作品である尾形光琳(1658-1716)の『松島図屏風』です。フェノロサが収集した名品の数々は親友で医者ウィリアム・ビッグロー(1850-1926)、そしてビッグローの友人チャールズ・ウェルド(1857-1911)の両人が買い取り、それをボストン美術館に寄贈し、同館東洋部のコレクションが世界一になっていきました。フェノロサは、生まれ持って具わった気品、趣味の良さ、教養、日本人と違う特別の鑑識眼を持っていたからこそ、膨大な数の優れた日本美術を収集できたと思います。そしてモースとフェノロサの繋がりがなければ、今日のようなボストン美術館は存在しなかったのです。この二人によって、日本人も日本美術の価値を教えられました。彼らは日本美術の美しさをアメリカの人々に紹介した大功労者であり、文化大使の仕事をしたのです。フェノロサはアメリカに帰国後、ボストン美術館の東洋部長に就任し、その発展に貢献しました。

「THE HEROES 刀剣×浮世絵」展の出品作品には、ビッグローならびにウェルドからの寄贈作品、そして近年新たにボストン美術館に寄贈された、世界有数の刀剣コレクター、ウォルター・エイムズ・コンプトン(1911-1990)のコレクションも含まれます。アメリカのインディアナポリス美術館に勤務していた折に、コンプトンコレクションの展覧会を企画・開催し、コンプトン氏と親しくさせて頂きました。当館開館20周年の節目の年に、素晴らしい名品の数々の里帰りを、ぜひ皆さまに楽しみにして頂けたらと思います。

開館からこれまで、当館を温かく応援してくださっている皆さま、訪れてくださる皆さまに、心より感謝申し上げます。美術作品に直接接し感性を磨くことは、一生の宝物になります。兵庫県立美術館はこれからも、地域に、そして世界に愛される美術館を目指し、子どもたちや若い人々をはじめ、皆さまの感性を豊かにする企画や情報発信を積極的に行ってまいります。

美術館の調べ

■ 梶原千聖ヴァイオリンリサイタル
4月16日(土)14:00～
アトリエにて
(定員50名、無料。当日13:15から
来場者カード、整理券配布)
曲目: メンデルスゾーン「無言歌集
より『春の歌』Op.62-6」、
ブラームス「ヴァイオリンソナ
タ 第1番『雨の歌』Op.78」ほか



ヴァイオリン
梶原千聖



ピアノ
尾上理絵

■ 農頭奈緒ヴァイオリンリサイタル
4月30日(土)14:00～
アトリエにて
(定員50名、無料。当日13:15から
来場者カード、整理券配布)
曲目: C.フランク「ヴァイオリンソナ
イ長調」、サンサーンス「死の舞踏」
ほか

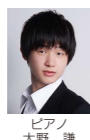


ヴァイオリン
農頭奈緒



ピアノ
白藤望

■ 大野 謙ピアノリサイタル
5月7日(土)14:00～ アトリエにて
(定員50名、無料。当日13:15から
来場者カード、整理券配布)
曲目: リスト「ピアノソナタ 短調 s.178」ほか



ピアノ
大野 謙

■ 大淵雅子ピアノリサイタル
5月14日(土)14:00～ アトリエにて
(定員50名、無料。当日13:15から
来場者カード、整理券配布)
曲目: ショパン「バラード第1番」、
デュティユー「ピアノソナタより第3楽章
『コラールと変奏』」ほか



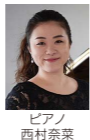
ピアノ
大淵雅子

四季シリーズコンサート<春>

■ 谷本華子・西村奈菜デュオコンサート
5月28日(土)14:00～
アトリエにて
大人3,000円
曲目: ベートヴェン「ヴァイオリン
ソナタ第5番『春』」ほか



ヴァイオリン
谷本華子



ピアノ
西村奈菜

落語の会「美術館の日」関連イベント

■ 泉美亭ワンコイン寄席
4月10日(日)14:00～
ミュージアムホールにて
(定員80名、無料。
当館Webサイトから予約受付)
演目: 「風呂敷」露の吉次
「新聞記事」笑福亭仁福



露の吉次



笑福亭仁福

KEN-Vi名画サロン
4月8日(金)
■ 「アートのお値段」(2018年)
①10:30 ②13:00 ③15:30
監督: ナサニエル・カーン
料金: 1000円、「芸術の館友の
会会員」500円
ミュージアムホールにて
(当日受付時にお名前などの記
入をお願いします)



泉美シネマクラシック
5月20日(金)
■ 「嵐が丘」(1939年)
①10:30 ②14:00
監督: ウィリアム・ワイラー
出演: ローレンス・オリビエ、
マール・オベロン、
デイヴィッド・ニヴンほか
料金: 800円、「芸術の館友の会会員」500円
ミュージアムホールにて
(当日受付時にお名前などの記入をお願いします)



各主催者によるイベント

5月
■ NEJA-ism 2022展
5月25日(水)～5月29日(日)
10:00～18:00(最終日は15:00まで)
ギャラリー棟3階 入場料: 無料
主催: ネジャ派実行委員会
お問合せ: 072-987-1390
(ネジャ派実行委員会)

6月
■ 第64回 新協美術関西巡回展
併催 第2回 関西アートコンペ
6月7日(火)～6月12日(日)
10:00～17:00(最終日は15:00まで)
ギャラリー棟3階 入場料: 無料
主催: 一般社団法人 新協美術会
お問合せ: 078-991-6481

■ ポトレのセカイ写真展
6月17日(金)～6月19日(日)
10:00～18:00(最終日は16:30まで)
ギャラリー棟3階 入場料: 無料
主催: ポトレのセカイ写真展実行委員会
お問合せ: 080-5104-5102

■ 富田依津子個展
6月22日(水)～6月28日(火)
10:00～18:00(最終日は15:00まで)
ギャラリー棟3階 入場料: 無料
主催: 油絵・水墨画教室(富田依津子)
お問合せ: 090-1150-5618